

方	紙	Q	成	に	と	費	の	か	社	A	設	の	差	い	Q		え	A	Q
が	パ	病	制	係	`	の	確	る	会	市	を	た	を	貧	ひ		て	県	福
`	ン	気	度	る	*	公	保	た	的	長	°	め	防	困	と		い	へ	岡
捨	ツ	等	を	初	養	正	は	め	自			の	ぐ	に	り		く	必	大
て	を	で	創	期	育	証	必	の	立	養		各	た	よ	親			要	橋
る	使	尿	設	費	費	書	要	費	を	育		種	め	る	世			性	拡
場	用	取	し	用	保	作	で	用	す	費		支	`	子	帯	高		を	幅
所	さ	り	た	の	証	成	あ	で	る	は		援	養	供	が	草		し	整
に	れ	パ	い	新	契	費	る	`	ま	子		事	育	の	陥	木		っ	備
困	て	ッ	°	た	約	用	°	養	で	ど		業	費	教	り			か	計
る	い	ト		な	締	助		育	に	も		の	確	育	や	良		り	画
ケ	る	や		助	結	成		費	掛	が		創	保	格	す	江		伝	は

問 用 患 A み 援 に で 宅 Q 関 設 の 今 現 性 A ニ ト ー  
看 し 者 市 込 事 な 経 療 3 係 置 未 回 の 向 市 タ イ ス  
護 、 在 長 ん 業 つ 済 養 9 各 し 設 の 観 上 長 リ レ が  
な 身 宅 群 い の て 的 は 歳 所 た 置 質 点 や 施 ボ や 生  
ど の 療 群 馬 算 る 負 担 介 下 広 ま 男 を ら 域 設 ツ 男 じ  
、 回 養 支 算 を 。 が 護 の げ た 性 受 必 共 利 ク 性 て  
家 り 支 援 県 の き 来 在 大 保 が て 順 用 け 要 生 用 ス ト いる  
族 の 世 事 若 た 年 宅 き 険 ん い 次 、 イ 4 あ 会 の の イ レ 。  
負 話 業 年 い 度 療 く 適 患 き 、 市 庁 する 社会の利便の多  
担 や を が に 養 問 用 者 たい 内に 舎 。 実 便 を の 目的  
軽 訪 活 ん 。 組 支 題 外 在 い 。

ク **Q** い る 活 い の 県 形 幹 全 わ **A** や の 元 は **Q** ら 減  
シ 北 き 都 用 き 必 へ や 線 確 せ 市 国 外 住 渋 福 実 を  
ー 部 た 市 し 、 要 福 構 道 保 て 長 に 付 民 滞 岡 施 図  
の の い 基 、 様 性 岡 造 路 が 自 予 け の や 大 に り  
よ 観 ° 盤 本 々 を 大 橋 必 と でき 転 塩 算 な 声 危 橋 向 た  
う 光 整 の 市 な し 橋 要 一 る 車 原 要 の は 険 が け い  
な 振 備 未 機 会 っ 幅 だ ° な う 歩 区 望 整 の 大 が 現 調 °  
第 に 備 来 や かり 整備 今 っ た 渡 瀬 者 の 開 通 等 備 生 状 の ま たい 令和  
2 の 観 光 交 通

発生した際に、その養育費  
＊民間会社と保証契約を締結により、  
活用していきたい。  
過疎対策事業債を効果的に  
把握し、計画に盛り込んで  
交通を含めた地域の実情を  
と考えている。今後、公共  
有効で最大限に活用したい  
地域の課題解決、活性化に  
A市長が過疎対策事業債は  
力を入れている。また、  
光興など北部の活性化に  
債の利用で、交通対策や観  
Q東・大間町の過疎対策  
も聞き検討していきたい。  
るよう、民間事業者の意見  
第2の交通対策が確保でき  
A市長みどり市に合った  
対策が必要では。

。

証 が

料 立

を 替

補 え

助 ら

す れ

る る

。 仕

組

み

の

保